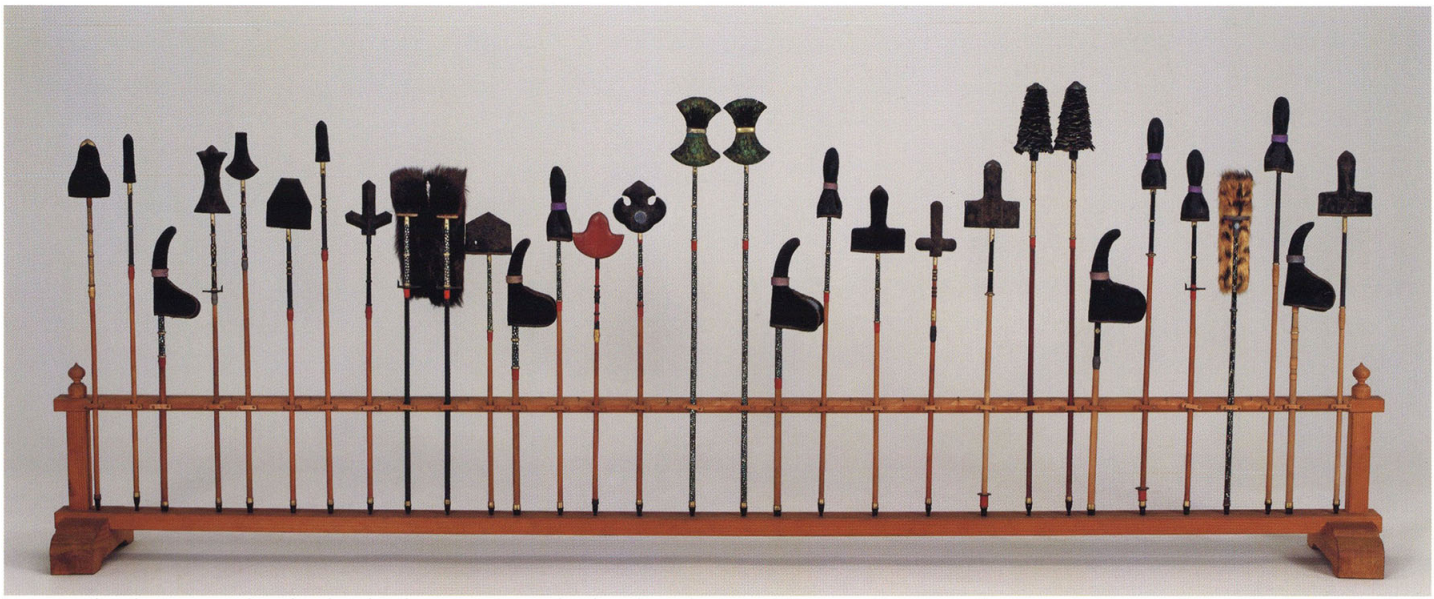


徳川（将軍家）
尾張名古屋藩 徳川
尾張犬山藩 成瀬
美濃今尾藩 竹腰
紀伊和歌山藩 徳川
紀伊田辺藩 安藤
紀伊新宮藩 水野
常陸水戸藩 徳川
信濃飯山藩 本多
駿河田中藩 本多
伊予西条藩 松平
伊勢神戸藩 本多
越後黒川藩 柳澤

18 旧諸大名槍雛形　山田幾右衛門

木、漆塗ほか
長三七・七～五七・〇
明治十七年（一八八四）

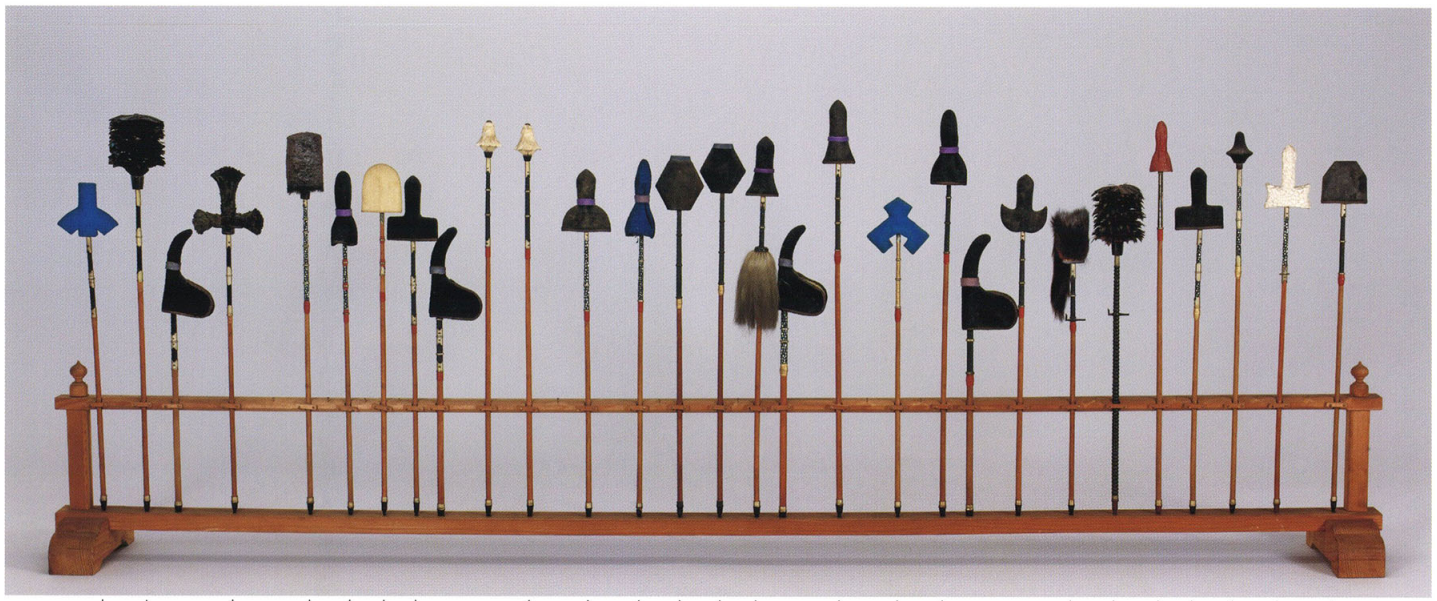
四七四点のうち

江戸時代、参勤交代の折りに諸大名は、その行列に用いる道具を各家の格式に従って誂え、様々に飾った。本作は、大名行列の道具のうち、藩主の乗物の前あるいは後ろに配置された長刀、槍をおよそ四分の一から五分の一に縮めた雛形に制作したものである。行列道具、伊達道具などとも呼ばれる道具のうちでも、特に、高くかかげられる槍とその鞘は、各家を一目で識別できるよう、特徴的な形、素材で造られた。大名家の名鑑でもあり、行列見物のガイドブックでもあった『武鑑』にもそれらの多彩な絵図が記されている。

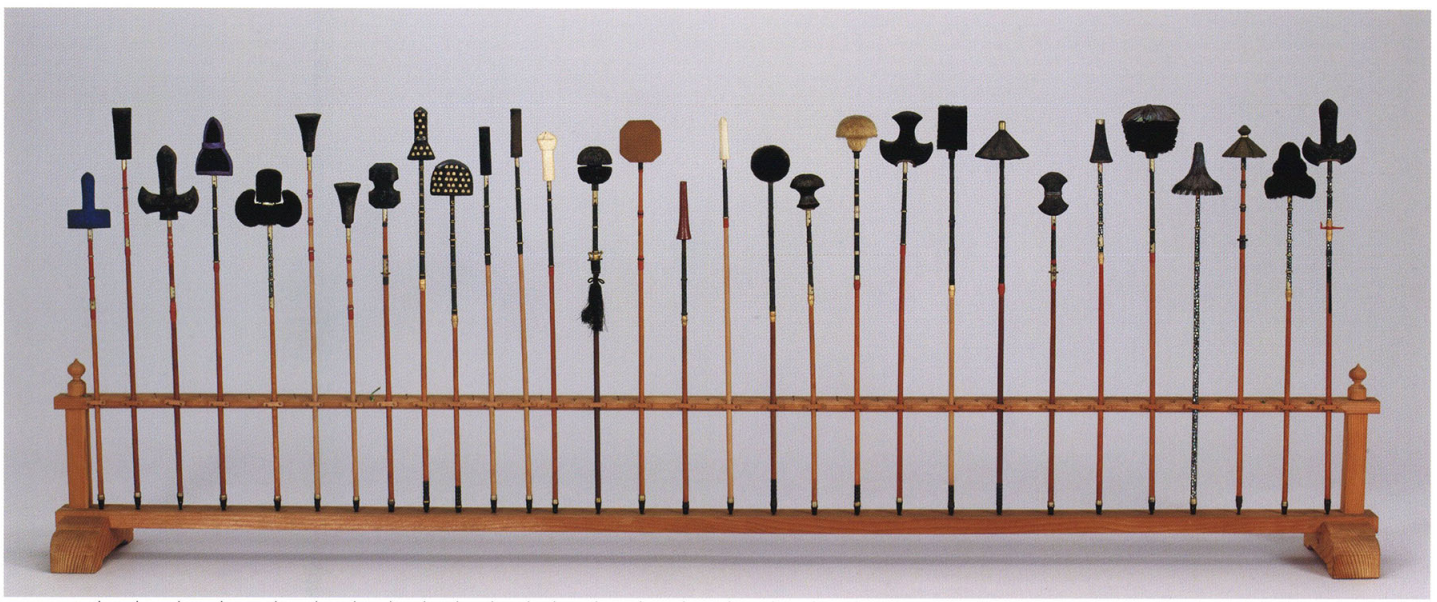
作者の山田幾右衛門は、『東京日日新聞』（「槍襖叙覧」明治十七年十一月四日）、『読売新聞』（「昔大名の行列」明治二十九年十一月七日）の記事によると、明治二十九年当時、六十六歳。京橋区槍屋町で代々幕府の御用槍師を勤めた家に生まれた。幕府の瓦解で家職の衰退に面した幾右衛門は、諸大名家の槍を雛形にして後世に伝えようと思い立ち、明治九年より十七年までにわたって、三百諸侯の槍、長刀を造ったという。これが本作に当たると考えられ、実際には二七六家、四七四点が伝えられている。『明治天皇紀』には、明治十七年十月三十一日に明治天皇は親王、大臣、参議等と御陪食を催され、その折に「御次の珈琲の間に槍師某模造の槍襖を陳列せしめ、天覧あらせらる」とある。この御覧の後、間もなくお買い上げとなり、今日まで伝えられてきたものである。本作には槍を立てる台が十六基伴なっているが、当初の並べ方が不明であり、各家の内容にも一部に錯簡が認められる。それぞれ、藩名や石高が記された紙札が添えられており、この記述から慶応三年頃の内容が表されているようである。使われている材料は、実際の槍に倣って、柄の螺鈿や金具なども精巧に造られ、鞘の材料もラシャ張り、漆塗りのほか、熊毛や羽根植のもの、貂やウサギの毛皮など様々である。諸大名家の故実を視覚的に伝える大作であり、御用槍師の家に代々伝えられた技が尽くされている。なお、この雛形制作の後、幾右衛門は大名行列を人形で再現しようと試み、小道具や衣裳なども精巧に造った三五〇体あまりの人形を明治二十二年に完成させた。これも宮内省の買い上げとなり、霞ヶ関離宮等で調度として飾られ、現在は東京国立博物館に所蔵されている（参考図版）。この後、さらに六年をかけて毛利、鍋島、戸田松平、秋元、柳生の五諸侯の行列人形五〇〇体余りを制作、明治二十九年十月二十八日より一ヶ月の間、駒込団子坂松葉楼で展観したという。

右図部分

右図部分



出羽米沢新田藩 上杉
出羽米沢藩 上杉
出羽亀田藩 岩城
常陸松岡藩 中山
出羽秋田新田藩 佐竹
出羽久保田藩 佐竹
越後清崎藩 松平
出雲広瀬藩 松平
陸奥八戸藩 南部
陸奥盛岡藩 南部
陸奥七戸藩 南部
越前福井藩 松平
伊勢桑名藩 久松松平
越前丸岡藩 有馬
下野吹上藩 有馬
常陸宍戸藩 松平



美濃苗木藩 遠山
常陸麻生藩 新庄
備中浅尾藩 蒔田
常陸牛久藩 山口
河内狭山藩 北條
日向高鍋藩 秋月
播磨林田藩 建部
伊勢長島藩 増山
肥前大村藩 大村
播磨小野藩 一柳
伊予小松藩 一柳
越後村松藩 堀
備中足守藩 木下
丹波山家藩 谷
大和柳本藩 織田
大和芝村藩 織田
越後椎谷藩 堀
出羽本庄藩 六郷
摂津麻田藩 青木
武蔵岩槻藩 大岡
三河西大平藩 大岡
肥前福江藩 五島
備中新見藩 関
近江大溝藩 分部
播磨赤穂藩 森
播磨三日月藩 森

信濃松代藩 真田

摂津尼崎藩 桜井松平

播磨龍野藩 脇坂

【参考】「大名行列人形」東京国立博物館所蔵　Image:TNM Image Archives

・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

珍品ものがたり
三の丸尚蔵館展覧会図録No.58

編集　宮内庁三の丸尚蔵館
制作　株式会社　東京美術
翻訳　横溝廣子
発行　宮内庁
平成二十四年七月二十一日発行
© 2012, The Museum of the Imperial Collections